



製造関連企業による「沖縄力発見ツアー2014」を実施 ～沖縄への投資促進や新たな産業の創出・振興等を目指して～

内閣府は、9月4日(木)～9月5

日(金)、県外の製造関連企業の幹部等の方々に沖縄のポテンシャル(沖縄力)や独自の特長・地域制度等のビジネス環境を見ていただく、「沖縄力発見ツアー2014」を実施しました。

今回のツアーでは、製造関連企業、

沖縄科学技術大学院大学等の視察を行うとともに、実際に沖縄に進出している県外の製造関連企業等との意見交換を行いました。

【ワーキング・ディナー】

沖縄力発見ツアーの初日(4日)は、県外から参加された24社の代表者等の方々と、阪本内閣府審議官、川上沖縄県副知事、県内経済界関係者等の方々との間でワーキング・ディナーを実施しました。

ここでは、「アジアのゲートウェイ」として発展する沖縄について概況説明の後、参加者間の意見交換が活発に行われました。

【視察】

翌日(5日)は、沖縄IT津梁パーク内に所在する企業(NTI株式会社、沖縄県金型技術研究センター)、沖縄科学技術大学院大学、那覇空港貨物ターミナルビル(ANA)をそれぞれ視察しました。

【県内製造関連企業との意見交換】

沖縄IT津梁パークにおいて、県内の製造関連企業との意見交換を行いました。

県外から沖縄に進出した製造関連企業からは、進出してきた理由として「電力供給、物流環境の充実、人材の豊富さ(特に若年層)」があげられる一方、県外の製造関連企業からは、「台風による影響」等についての質問がありました。

【ツアー参加者からの声】

ツアー参加者からは、

○地理的な利点や税制優遇以外に、沖縄立地のメリットを何かしら打ち出

すことが必要ではないか。

○物流拠点として、空港・港湾の戦略的利活用が重要である。

○沖縄科学技術大学院大学は、教授・学生のレベルの高さや研究設備等も素晴らしい。多くのベンチャーが誕生することを期待している。

といった意見がありました。

内閣府では、今回の沖縄力発見ツアーで頂いた様々な方々のアドバイス、お声を今後の取組にいかしていきたいと考えています。



ワーキング・ディナーにおける意見交換



那覇空港貨物ターミナルビル(ANA)の視察



県内製造関連企業との意見交換